

News Letter

第4号 2009.8.25

長崎大学環境科学部

URL: <http://www.env.nagasaki-u.ac.jp/>

Tel&Fax:095-819-2720

■「地域力再生プロジェクト」着々と —雲仙を学生がフィールドで学ぶ「エコキャンパス」に—



6月12日、課外科目「地域力再生プロジェクト」が始動しました。これは、雲仙Eキャンレッジプログラムの一環として、学生が地域の方たちとともに学ぶ「エコキャンパス」構想のもとに企画されたもので、不定期に7回の実施を計画しています。第1回目のテーマは、「田植え体験と水利学習」です。

8時過ぎに大学を出発し1時間ほどで小浜町富津に到着。募集に応じて参加した11名の学生たちは、市立小浜小学校5年生の子どもたちと一緒に、約20cm間隔に稲の植え付けをすることや、1アールの田んぼから数十kgの米が収穫できることなど、地元の方の説明に聞き入っていました。去年は、小浜

小の子どもたちは木指小学校小田山分校跡のある小田山集落の棚田で田植えから収穫までを体験しています。しかし、猪による被害が目立ち、今年はここに場所を移したとのことで、自然の恵みとともに、自然と共存していく難しさを感じる話です。当日のようすは、

長崎新聞で記事として紹介されました。

7月12日、第2回目は定員20名を超える25名の学生が参加。そうめん流し体験ののちに「生き物調査」を実施



田植え体験の様子を伝える長崎新聞記事(6月14日付)

しました。14時頃から小田山分校跡近くを流れる金浜川へ。地元の方々によると、かつては鰻を獲ったりするのが当たり前だったとのこと。今回は、ゲストに三矢泰彦先生(本学名誉教授、(財)長崎YMCA理事長)を招き、生き物調査を初歩から解説指導していただきました。10分ほど川底に置いた仕掛けには、小魚やカニが予想以上に入っており、金浜川はまだ生きていることを実感しました。

これまで2回の実施から、学生たちがこのような活動体験の経験が予想以上に乏しいことも判りました。「環境」を学ぶうえでフィールドでの体験は欠かせません。学生のニーズと、本センターが提供するプログラムとその水準をどこに設定するのか、常に考えつつ早速次回以降の実施計画を立ててみようと思います。



【もくじ】

■「地域力再生プロジェクト」着々と	1	■「環境リレー講座」始まりました	3
■連載 環境科学部ゼミめぐり④ 馬越ゼミ	2	■書架 『ジオパーク』	4
長崎まちEco探検③ 小菅修船場跡	2		

■連載

—学生リレー企画— 環境科学部ゼミめぐり ④ 〈馬越ゼミ〉

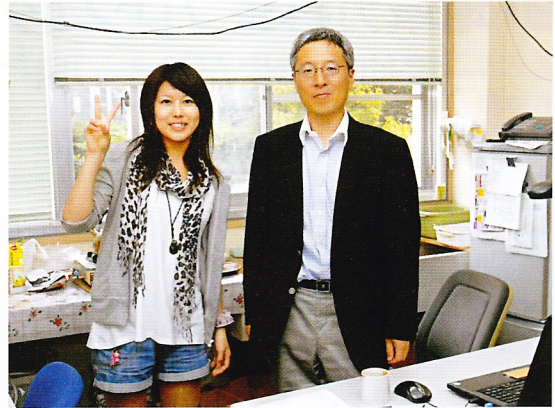
馬越研究室には、雲仙普賢岳の様々な資料があります。とりわけ1990～1995年に噴火したときの地震データは膨大で、毎年卒業研究のテーマになっています。私もこの記録の解析をテーマに選び、目下、地震波形の読み取りに没頭する毎日です。



その他の研究テーマとしては、ジオパークや地熱利用に関係した調査研究もこなっています。また昨年からはインターネットで全国の地震計データをリアルタイムで収集できるようになりました。今年は手始めに、自分たちの住む長崎市周辺の地震活動について調べる予定です。

これらの活動以外では、環境教育研究マネジメントセンターの「地域再生プロジェクト」に参加しています。6月の雲仙市での田植えには私を含むゼミ生2名が参加し、地元の小学生たちと一緒にとても貴重な体験をすることができました。

(4年 崎間由貴)



長崎まちエコ探検③ 小菅修船場跡

街なかを歩いていると、何気ない景観に意外な歴史や人びとの思いが詰まっているのを知ることがある。本コーナーでは、そのような長崎の隠れた自然・歴史・文化などのさまざまなスポットをご紹介します。



幕末、外国から購入した蒸気船を修理するため、1868(明治元年)年に、五代友厚が小松帯刀とグラバーの協力を得て竣工した。日本初の洋式ドックで、翌年には国に所管が移り、のちに三菱造船所となった。

長崎湾のなかにある入江という天然の地形をうまく利用している(左写真)という自然環境的要件と、鎖国の時代でも一貫して海外の技術に触れていた長崎という社会環境的要件がそろう場所が、この修船場といえる。国

内最古のこんにやくレンガ製の倉庫(右写真)は曳揚のための機械が置かれている。

2009年1月、世界文化遺産の暫定リスト入りした「九州・山口の近代化産業遺産群」の構成遺産のひとつとなった。その割には、あまり観光地化されておらず、地域にそのまま溶け込んだ産業遺産のある海辺の景観が魅力である。



■「環境リレー講座」始まりました

雲仙 E キャンレッジ交流センターほか雲仙市内各地を会場として、毎回テーマを変えた環境リレー講座(環境教育研究マネジメントセンター・雲仙市・長崎県環境部の共同開催)が始まりました。昨年度は、交流センターでは開所記念公開講座など単発的な市民向け講座を開いていましたが、今年度からは連続講座を実施していきます。雲仙市内外からの多数の参加をお待ちしています。

*受講料無料。会場は事前に雲仙市環境政策課までお問い合わせください。

【受講申し込み・問い合わせ先】 雲仙市環境政策課
(電話 0957-38-3111、メール kankyo@city.unzen.nagasaki.jp)

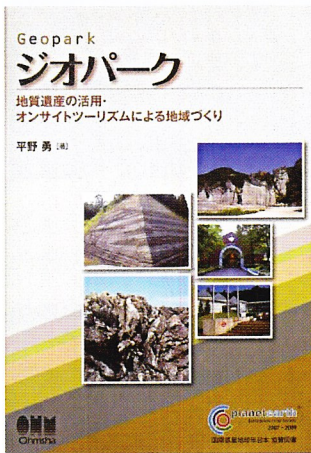


回	開催月日	テ ー マ	講 師	キーワード
第 1 回 (終了)	6月26日(金) 14:00~15:00	【廃食用油が燃料に！】 小浜地区で実験中の BDF 製造事業を中心に、廃食用油の再利用についてわかりやすく説明します。	長崎県 (環境保健研究センター) 竹野 大志 主任研究員	BDF
第 2 回 (終了)	7月15日(水) 14:00~15:00	【ごみってどうなるの？】 雲仙市内で排出されるごみの実態とゆくえをわかりやすく説明します。	雲仙市市民生活部 環境政策課 石橋 寛 課長補佐	一般廃棄物
第 3 回 (終了)	8月3日(月) 14:00~15:00	【知ろう！防ごう！食中毒】 食中毒を防ぐためにどうすればよいかについてわかりやすく説明します。	長崎県 島原振興局保健部 眞崎 敬明 係長	食品衛生
第 4 回	9月24日(木) 14:00~15:00	【ペットは家族の一員です！】 ペットの適切な飼い方、育て方と県の動物愛護計画についてわかりやすく説明します。	長崎県 島原振興局保健部 渡邊 渡 係長	狂犬病・動物愛護
第 5 回	10月16日(金) 16:00~17:00	【ジオパークとは】 ジオパークについて、現状と課題をわかりやすく説明します。	長崎大学環境科学部 馬越 孝道 准教授	ジオパーク
第 6 回	11月25日(水) 16:00~17:00	【環境にやさしいまちづくり】 環境に配慮したまちづくりについて、都市計画などの観点からわかりやすく説明します。	長崎大学環境科学部 渡邊 貴史 准教授	まちづくり
第 7 回	12月14日(月) 14:00~15:00	【リサイクル法ってどういうもの？】 パソコンやテレビなど、家庭から排出される廃家電等のリサイクルシステムについてわかりやすく説明します。	雲仙市市民生活部 環境政策課	リサイクル
第 8 回	1月19日(火) 16:00~17:00	【観光はエコ活動から】 エコ活動と連携した観光産業のあり方について、事例等を交えながらわかりやすく説明します。	長崎大学環境科学部 深見 聡 准教授	観光と環境
第 9 回	2月17日(水) 14:00~15:00	【守ろう！川を、海を】 雲仙市の美しい川や海を守るための生活排水対策についてわかりやすく説明します。	雲仙市市民生活部 環境政策課	生活排水
第 10 回	3月2日(火) 16:00~17:00	【新エネルギーって何？】 地球温暖化対策として脚光を浴びている新エネルギーの利点、欠点についてわかりやすく説明します。	長崎大学環境科学部 小野 隆弘 教授	エネルギー

■書架

『ジオパーク—地質遺産の活用・オンサイトツーリズムによる地域づくり』

(平野勇著、オーム社刊、2008年、¥2,625)



8月22日、世界ジオパークネットワーク事務局会議が開かれ、島原半島ジオパークが、糸魚川(新潟)、洞爺湖有珠山とともに日本初の認定を受けた。

地質遺産と聞くと、地学や岩石学といった地味なイメージを持たれる方もいるかもしれない。しかし、火山・滝・河川・海岸など景勝地を生み出す成因は地層の種類の違いによるところが大きい。また、温泉は湧き出す地下の地質により泉質が変わったりする。こう考えると、私たちの生活に身近なところで、地質は深いかかわりを持っていることがわかる。本書でも述べられているように、「人々がみずからの明確な意図とテーマを持って現地を訪れ、実物・本物に触れて感じ、学び、遊び、楽しみ、体験し、気づく」ことを目的としたさまざまな視点からの地域づくりがさかんになっている。言い換えれば、地に足のついた相互交流を生み出す地域のあり方を考えたとき、その資源となるものもつ固有性(そこにしかないもの)を活かさない手はない。

著者が文中で用いている「オンサイトツーリズム」は、地域まるごと博物館の考え方でフランスを発祥とし日本国内でも取り組みがさかんになってきたエコミュージアムと類義のものといえよう。世界ジオパークが身近に誕生したのをきっかけに、ぜひ地質のもつ面白さに触れてほしい。本書はその期待に応えてくれるお薦めの一冊である。



事務局だより

◎「長崎大学 雲仙環境カレッジ」を開催します

JTBと共同で、11月9日(月)～13日(金)に開催予定です。環境科学部の研究の成果や、地域の文化や歴史、自然といった講義とフィールドワークからなる生涯学習プログラムとなっています。ウェルカムパーティーやさよならパーティーなども企画しています。詳細は、JTBの「地域アカデミー・日本農学ルネッサンス受付デスク」(Tel.03-5953-5485、Fax.03-5950-1633)までお気軽にお問い合わせください。

[講義内容の一部ご紹介] 「古写真に見る長崎と雲仙」(姫野順一教授)、「お山雲仙の自然」(雲仙自然保護官事務所)、「温泉地域のまちづくり」(渡邊貴史准教授)、「島原半島ジオパークと楽しみ方」(島原半島ジオパーク推進連絡協議会事務局)、「篤姫から龍馬伝へ」(深見聡准教授)

◎ニュースレターをお手軽に

定期購読しませんか? 購読料無料、年間送料分の切手代(80円×4回)のみ負担。まずはセンターまで気軽にお問い合わせください。本紙は季刊号として2、5、8、11月に発行しています。学内配布のほか、長崎県・雲仙市の主要公共施設に設置。また、センターホームページからPDFファイルでダウンロードも可能です。

□編集後記□

第4号をお届けします。島原半島が世界ジオパークの仲間入りを果たしました。雲仙市と連携協定を結ぶ環境科学部としても、大変喜んでます。とくに、センターとしては、ジオパークに関する公開セミナーやモニターツアーの開催、研究支援等の活動が活発化できないか検討をすすめていきたいと思っております。/本紙へのご感想やご意見もお寄せください。次号は11月25日付で発行予定です。(深見)

環境教育研究マネジメントセンター News Letter (第4号)

2009年8月25日発行

長崎大学環境科学部環境教育研究マネジメントセンター

〒852-8521 長崎市文教町1-14

URL <http://www.env.nagasaki-u.ac.jp/>

Tel&Fax 095-819-2720(深見聡研究室)

E-mail fukami@nagasaki-u.ac.jp

(編集長: 深見 聡)

印刷: 平和堂オフセット印刷(有)